

# まんだら通信

第162号 (通巻194号)

平成21年(2009)12月 佛誕2575年

295-0103 千葉県南房総市白浜町滝口1084  
真言宗智山派 天神山 紫雲寺 高橋 龍渉  
郵便振替 00120-2-43163 紫雲寺  
TEL0470-38-4740/FAX 0470-30-5040  
<http://www.shiunji.org/>  
Mail post@shiunji.org



タミル人の学校で 受け取ったピアノカを持って

## スリランカに行ってきました

十一月十九日出発、三十日帰国でスリランカに行ってきました。  
館山、『かにた婦人の村』にお勤めの佐々木さんご夫妻と、親戚の山口夫妻、孫の龍祐と私の六人でした。  
成田空港では、東京の日蓮宗宣要寺様が待っていて、援助物資六十キロを運ぶことになりましたが、長くスリランカを訪問して援助活動を続けている方のことだけあって、小分けした梱包で、手際よくまとめてあって助かりました。  
今回の旅は、この頼まれものをお届けすること、『あそか基金』の子供たちに会ってそのご家庭を訪問することの他に、『成田山幼稚園』の卒業記念音楽会へのご招待など、盛りだくさんの目的がありました。  
スリランカはこの三十年余り、内紛状態が続いていましたが、政府軍によってこの

五月に武力紛争が終わり、久しぶりに平和が戻りました。  
上の写真は、今まで外国人が入れなかった東海岸のトリンコマリーの学校で、宣要寺様からのピアノカを手持つ中学生たちです。  
校長室でお渡ししたのですが「戦争状態だった三十年の間、教育関係も被害が大きかったが、これからは子供たちも伸び伸びと勉強できます。」と、丸顔の穏やかそうな校長先生が仰っていたのが、とても印象的でした。  
振り返って、第二次大戦以来六十年、全く内戦がなかった日本という国は世界でも珍しい、恵まれた国なのですね。  
『あそか基金』の奨学生は現在二十五人に増えました。  
スリランカでは授業料は国が負担しているそうですが、教材や通学費などは自分で用意しなければなりません。



奨学生 25人との夕食会

お訪ねしたご家庭は、日本ならとても住めないような質素な家でした。『あそか基金』から毎月支給される奨学金五百ルピーは、ささやかながらお役に立っているのだと分かりました。  
夕食会は、同行の皆さんが費用を出してくださいましたが、世話して戴いているアンギーお坊さんは「普段、こういうところで食べるのがない子供たちの、とても良い勉強になります。」と、いつかいいましたが、ボーイさんを五人もつけて、レストランの二階を開放し、正式のディナーをさせてくれた社長さんに感謝したら「はい。私のお寺の檀家さんです。」と、アンギーさんが誇らしげに話していました。  
今は少くし違っているようですが、困っている人を見ると黙っていられないのが日本人のクセですね。  
三民主義を掲げ辛亥革命で清朝を倒し、中国の近代国家への道筋を開いて、革命の父と称賛される孫文もその一人ですね。



奨学金を手渡す



飛び入りの地引き網

右翼の親玉と言われた遠山満そのほかの莫大な資金援助がなければ、革命は到底成功しなかったでしょう。  
日本に留学して教育を受けた周恩来、魯迅、蒋介石みんなそうです。そのほか無名の人は沢山いるはずですよ。  
スリランカも、日本の公的援助ODAによって、国造りに励んでいます。津波で被害を受けた南西海岸の小さな漁船の船腹にもJICA(独立行政法人国際協力機構)のステッカーが貼ってありましたが、南部の広大な海岸ではコンテナ船のためのハブ港の建設が始まっていて、先輩格のインドやシンガポールが(お客が減ると困るので)神経をとがらせているそうです。  
この国は『南海の真珠』といわれるように、自然も人々も実におっとりとして素晴らしい国です。そして他の国以上に、日本大好きの人が多い国です。一度訪ねてはいかがでしょうか。

第四十八話 車掌さん

♪今は山中、今は浜、今は鉄橋わたるぞと……。そんな歌がありましたね。♪汽車、汽車、しゅつぽしゅつぽ……。なんて小さな目を精一杯開けて歌った昔を思い出します。

♪線路は続くよ、どこまでも……。とか、♪いつもいつも通る夜汽車……。という歌もありましたね。

汽車道なんて言葉、覚えていますか。畑で遊んでいても、汽車が通る時間になると、みんなで汽車道に並んで、通り過ぎていく列車に手を振ったりしたものです。

♪汽車の窓からハンカチ振れば、牧場の乙女が花束投げる……。なんて歌をご存知の方はさすがに少ないでしょうね。岡本俊郎さんが歌った「高原列車は行く」という歌です。

あれ、どういうわけなのでしょうかね。列車が通る回数が圧倒的に少なかった時代だからこそ、そうした光景が瓦しい思い出に残るんでしょうね、その点では、現在の・子供たちはかわいそうに思いますねえ。

今日は、そんな鉄道にかかわるお話です。仙山線せんざんせんって、ご存知でしょうか。仙台と山形を結ぶJR線です。この仙山線が開通したのは、昭和十二年のことです。仙台も山形も東北を代表する都市ですから、仙台市や山形市の郊外が発展するにつれて、仙山線の都市近郊区間は、いまやかなりの通勤客で混雑しています。

福本典子さん（四十九歳・仮名）もそのひとりです。もともとは宮城県と山形県の県境の山村の出身ですが、結婚して、いまは共働きをしながら、仙台心内に住んでいます。その典子さんの子供の頃の話です。

典子さんの家は、農家でしたが、父親が病気がちのために、かなり生活は苦しかったようです。そんな家族を支えたのは、年の離れた兄でした。典子さんがまだ小学校にも上がらない頃から、中学生だった兄ちゃんは、学校に行く前に必ず畑に出て働き、学校か

ら飛んで帰ってくると、暗くなるまでまた畑仕事をして、家族を支えていたようです。それでも、たったひとりの妹である典子さんをとてかわいがってくれました。疲れているのに、寝る前には本を読んでもくれるのも兄ちゃんでした。ですから、典子さんは、兄ちゃんが大好きでした。いまでも、典子さんがよく覚えている風景があります。

それは、ある春の日、まだ小さかった典子さんを肩車して、汽車道に連れていってくれたことでした。畑の向こうを仙山線が通ります。

「汽車だ、汽車だ、兄ちゃん、汽車が来たよー」

典子さんが騒ぐと、兄ちゃんも体を揺らして、汽車が通りすぎるのを見送りました。ちょうど桜が満開で、桜吹雪のトンネルのなかを汽車は進んでいきました。典子さんが小学校に入学した頃から、その兄ちゃんの姿が家から消えました。兄ちゃんは働きに出るために、家を出たのです。どこに行つたのか、典子さんはわかりませんでした。

次に会つたのは、お父さんが亡くなった時です。典子さんは小学校の高学年になっていました、その時、兄ちゃんは国鉄で働いていて、給料を家に仕送りしてくれていることを知りました。

「私たちが、こうやってごはんが食べられるのも、兄ちゃんのおかげだよ」

お母さんは、よくそんなことを言っていたそうです。

ある時、典子さんは兄ちゃんに手紙を書きました。

「兄ちゃん、元気ですか。私も早く大きくなつて働きます」

兄ちゃんの返事は、こうでした。「典子、兄ちゃんは元気です。でも、いま

は一生懸命、勉強するのが典子の仕事だよ」

兄ちゃんのおかげで、高校を卒業して、仙台の会社に就職が決まった時、兄ちゃんは久しぶりに帰郷し、夜遅くまで話に花が咲いたそうです。そして、兄ちゃんが車掌をしていることを初めて聞きました。

「兄ちゃん、車掌さんなんだ。仙山線にも乗る？」

「ああ、よく乗るよ」

「私が乗つた時に会えたらいいね」

ふたりは、そんな話で盛り上がりました。それからは、正月、結婚式、盆休みなど一年に数回、兄ちゃんと会うことができただけです。やがて二人とも結婚。お母さんは一人暮らしですが、兄ちゃんが定年になったら家に戻ってくると思っていた。

そして、去年の春、典子さんはまたま通勤の帰りに北仙台駅から仙山線の快速に乗りました。

「次は仙台、仙台、終点です。東北・秋田新幹線、東北本線、常磐線、仙石線、仙台空港鉄道は乗り換えです。お忘れ物のないよう、お降りください。まもなく仙台です」

車内アナウンスが流れました。「あつ、兄ちゃんの声だ！」

典子さんは仙台駅に降り立つと、すぐ最後の車両に向かってプラットフォームの人込みのなかを走っていききました。車掌室から、兄ちゃんが顔を出してました。女性が改札口と逆方向に向かって走って

くるのですから、目立つたのでしよう。「典子！」「兄ちゃん！」兄ちゃんは、口に手を当て、人つてくる典子さんに向

かつて大きな明るい声でこう叫んだそうです。

「今日で定年やーッ」  
ありがとう、兄ちゃん。典子さんは、思わず涙が流れて止まらなかつたそうです。三遊亭鳳豊さんのご好意で月刊MOKU十二月号の転載です。



09/12/09 龍渉

ムページに載せるつもりです。見に来ていただくと、とても嬉しいです。

◆3ヶ月に1回ぐらい、寝過ぎすこともありますが、毎朝6時に梵鐘を打っています。この季節は日の出前で暗く、風が強い朝は厳しいこともあります。でも、砂取の方まで聞こえると聞いて元気が出ました。◆今では何の変哲もない、極く普通のベゴニアですが、師僧が新潟から来た大正14年、「草鞋を脱いだ」千倉の長性寺さまで貰ったものだそうで、当時とはとても珍しいものだったとか。

◆スリランカのどこを走っても、日本の援助のあとが沢山見られます。日本のお寺や個人、法人が設立した幼稚園もいっぱいあり、首都コロポに近いうちランポクナガマの『成田山幼稚園』もその一つで、愛知県の成田山大聖寺（犬山の成田山）によって19年前、当時の主管菱木僧正の時に開設されました。現在の園児は400人だそうです。朝礼の時、日の丸とスリランカの国旗を掲げ、両国の国歌を歌います。

◆写してきた写真は500コマを超えました。見て楽しい写真も沢山ありますので、近いうちにホー

余滴